車椅子から見た暮らしの現状と課題
–福祉機器の開発、普及を考える–

○落合克良　（あい・あーる・けあ株式会社）

1. 自立できる障害者にとって、欠落した機能を補う物。
2. 介護者の労力を軽減する物。
3. 介護される人の精神的負担を軽減する物。

大きくはこの三つに分けられると考えます。1．について考えるとき、人は目が悪くなったときメガネを、歯が悪くなったとき入歯を、使用してその機能を補います。目の機能として、遠近の物体を見極める、物との距離を認識する等、様々な働きがあります。その一つでも欠けたときに使用する機器がメガネです。メガネには素材、機能、デザイン等の工夫、究極までの軽いもの、遠近両用、コンタクトなど限り無く改良進歩しています。車椅子はどうでしょうか？　下肢の障害で足の機能を失った人は例外無く車椅子に乗りますが、足の機能とは歩く、走る、立つ、座るなど自分の意志の方向（前後、左右、上下）に自身のからだを移動することです。現状の車椅子もかなり進歩してきていると思いますが、足の機能を補っているとは思えません。例にあげたメガネや入歯は、製品の進歩と共に身体の一部として同化するところまで行っています。福祉機器の開発が進まないのは使用者の絶対数からいって商業ベースに乗らないからではないでしょうか。そのことで福祉機器の開発、進歩にブレーキがかかるとしたらノーマライゼイションの社会などありえないのではないでしょうか。

研究、開発、制作サイドに使用者（障害者）の意見がはんえいされるシステムが少ない。又スタッフとして参加しているケースが少ないのが、たいへん残念に思います。このことで一番大切なのは使用者（障害者）の精神的部分、苦労をかけて申し分けないと思う心、恥ずかしいと思う心等を大切にしてこそ人に優しい福祉機器と、云えると思います。

自立支援機器の望むべき姿と課題

○畠山卓朗　（横浜市総合リハビリテーションセンター・エンジニア）

Key Words: assistive aids, independent life, user oriented R&D

一生懸命取り組んだ研究テーマなのに，ユーザからは今ひとつ受け入れてもらえない... 先端技術を障害がある人や高齢の方々に役立てようとしている研究者の方から，以上のような落胆の声をしばしば耳にすることがあります．どうしてそんなことが起こってしまうのでしょうか？

本シンポジウムでは，

- 真のニーズと見かけのニーズ
- 誰のための研究開発？
- 人手不足→機械化は正しい？
- 人を使う気にさせる機器開発は？

などのキーワードで話題提供させていただき，今後の機器開発はどうあるべきかについて皆さんとともに考えたいと思います．